

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800353		
法人名	医療法人 新生会		
事業所名	グループホーム チェリーブラッサム		
所在地	山口県岩国市下342-1		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和6年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境のもと、個々に合わせ状態変化や趣味嗜好にも柔軟かつ速やかに対応し、日々楽しく安心・安全な日常生活を送っていただける事で、入居者・家族共に評価され信頼関係を作れるよう支援しています。 また、四季に合わせた行事やレクリエーション等の色んな活動を通して、一人ひとりが生き生きとした笑顔の多い生活を送っていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者支援や対応困難事例について、つねに職員が話し合いを行い解決している。居室掃除・洗濯物たたみなど利用者が出来る事を見いだし一緒に行動している。法人は職員を育てる事に積極的に取り組んでいる。職員研修を計画して実施し、介護福祉士の資格取得では実務者研修を法人が行い、介護福祉士などの資格取得・研修参加へのサポートを行っている。利用者が重症化した際は、家族の要望に沿った支援を行うように取り組んでいる。看取りに関する研修を行い、協力病院との連携で看取りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はできているが、地域密着型という部分が今後の課題である。	事業所理念があり、事務所とリビングに掲示している。困ったことがあれば、理念に立ち返り考えている。理念に沿った支援を行い、現状に即した具体策を職員と話し合い取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において希薄となっている。	コロナ禍前には、地域の町内会議に参加し草取りに協力していた。地域行事のとんどに利用者が参加し、法人主催の夏まつりに地域住民が参加していた。コロナ禍によりすべての行事が中止となり、再開されていない。今後は地域ボランティアの受け入れを検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において希薄となっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングや業務の合間等を使い、改善方法を検討し改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価を行い、管理者がまとめて記載している。前回の外部評価での取り組み、外出支援と地域との協力に関して職員会議で話し合ったが、コロナ禍の最中であり、対応が困難であった。	事業所の自己評価はより具体的な内容を記載し、事業所が実際に活動していることを紹介することを期待する。今回の外部評価で指摘された事を話し合い、より良いサービスの実現に繋げることを期待する。
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、現地開催を再開し報告や意見交換を行っている。	今年度8月から運営推進会議を再開し、地域包括支援センター・地域代表・駐在所長などが参加している。家族に案内するが参加に至っていないが、「運営推進会議のお知らせ」を送付し報告している。新型コロナウイルス等の感染状況などについて意見交換を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネを中心に連絡を取り合っている。	運営推進会議に地域包括支援センターが参加し意見交換し、地域ケア会議に参加している。管理者が市へ書類を提出する際、介護保険に関して質問するなど、顔なじみの関係が出来ている。市生活課と連携して利用者の支援をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を開いたり、身体拘束を行わないような代替案を検討し取り組んでいる。スピーチロックも気をつけていきたい。	年1回、職員が担当して「身体拘束をしないケア」研修を所内で実施している。法人内に「身体拘束廃止委員会」を設置し、報告書を作成し法人の会議で施設内の状況を報告している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開き、意識付けを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者なし。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、理解・納得してもらえるよう丁寧な説明を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、苦情受付担当者や苦情解決担当者を設け体制を整えている。	電話や面会時での相談については、丁寧な対応を行い家族の要望を聞いている。面会の要望については、リビングを通らず居室での面会として対応している。今後は家族会を開催し事業所の状況を報告しようと検討している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや業務の合間等、何かあれば意見交換を行い情報共有や改善に努めている。	年2回の人事考課、職員会議や業務の合い間に職員の意見を聞いている。今後、事業所はIT機器を導入して記録するシステムを行う予定で、職員の意向・要望を聞いている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人事務局にて整備を進めているが、定期的に職場環境の改善・整備に際して意見を出している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や法人にて資格取得サポート制度もある。	法人は認知症ケアや災害時対応などの職員研修を実施し職員が参加している。法人は介護福祉士などの資格取得支援に積極的に取り組み、法人が実務者研修講座を実施し、研修費用の支援を行っている。ケアマネなどの研修参加も支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降、希薄になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での聞き取りが不十分であり、適切なサービス提供や信頼関係作りのためにも改善していきたい。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階での聞き取りが不十分であり、信頼関係作りのためにも改善していきたい。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階での聞き取りが不十分であり、適切なサービス提供や信頼関係作りのためにも改善していきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた接し方やケア方法を考えながら取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や何かあった時にはこまめに連絡し、状態説明を行ったり意見を聞くよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を再開した事によって、徐々に増えてきている。	新型コロナウイルス感染対策が緩和され居室での面会を再開し、家族や知人の面会が多くなっている。年賀状を家族に郵送し、受診時に少し遠回りして今までよく行った場所に出かけることもある。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り配席を工夫したり、お祝い事や行事レク等にはみんなで楽しめるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後のフォローは行えていないが、紹介をしてもらえたり間接的には関係が繋がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアや雑談の中で、本人の意向を汲み取れるよう接し対応について検討を重ねている。	日常生活の中で利用者の思いや意向を把握し、直ぐに出来ることは対応している。帰宅願望が強い利用者には、一緒に散歩することで気分が落ち着くようにしている。自分の思いを伝えにくい利用者は家族からの情報を得て対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階での聞き取りをもっと内容の濃いものにしていく必要がある。 ただ、日々のケアや雑談の中で把握できるような接し方をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努め、個々の状態に合わせた過ごし方をしてもらっている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見を集めはしているが、チームで作成する話し合いの時間が持てていないし、意見がうまく反映されていない。	計画作成者は、毎月モニタリング表をチェックし、3か月ごとにモニタリングを作成している。ケアプランの見直しが必要な際は、職員と話し合い家族の要望を聞いてケアプランを作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録をしていますが、職員によってはそれを活用出来ていない。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて柔軟な対応を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降希薄になっているため、現状での地域資源の把握から行っていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療を受け、必要に応じて他科受診も行っている。	利用開始時に協力病院について本人・家族に説明し要望を確認し、協力病院医師をかかりつけ医としている。月2回、訪問診療を実施し利用者の健康状態を把握している。体調不良時は病院に連絡して指示を受け対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて情報共有し、報告や相談を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、情報交換や相談を行っている。ただ、その場限りであり関係作りまでには至っていない。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向について、入居に際して説明し聞き取りを行っているが、状態変化があった際には都度説明や確認を行っている。	利用開始時に「看取りに関する指針」を説明し緊急時ならびに看取りケアについての意向確認を行う。重度化した際、医師が家族に状況説明を行い方針を決定し、それに沿って支援する。看取り研修を実施し今年度は3件の看取り事例がある。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員間での差があるが、訓練が乏しいため行っていきたい。	事故・ヒヤリハットの状況を記録し再発防止策を検討している。介護に関する「危険予知トレーニング」では、表示された事例を見ながら事故防止について検討している。救急救命訓練は外部研修で学んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災の日を決め意識付けや訓練を行うようにしている。 地域を巻き込んでまでの訓練は出来ていない。	年に2回の避難訓練では夜間想定訓練を含めて、利用者も参加して実施されている。年に数回の「防止の日」では、備蓄品の確認と実際に非常食を作り避難訓練を行っている。水害に備えて垂直避難訓練の実施を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉、言い方、声量、表情、雰囲気など含め気をつけて対応している。	年1回の接遇に関する法人研修では、利用者を尊重した言葉使いをするように指導されている。排泄や入浴介助では羞恥心に配慮した対応を心がけている。利用者の個人情報に他の利用者に伝わらないように配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、希望を汲み取り自己決定を尊重できるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人本位で生活してもらえよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせ対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスに移行後も、楽しみを作るためにも定期的に入居者の希望するものを一緒に作ったり提供している。	配食サービスを利用しているが、毎食のご飯と汁物は職員が調理して提供している。行事食は職員が調理したり弁当を利用することもあり、誕生日に利用者が要望する献立にすることもある。天気の良い日に中庭で食事を楽しむこともある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用している。また、状態に合わせた物を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた方法でケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を活用し、一人ひとりの状態に合わせ対応している。	排泄チェック表を利用してトイレ誘導を行っている。夜間の転倒防止に配慮し安眠を確保するためにどうしたらよいかを職員間で話し合い利用者に応じた適切なパットを使用するようにした。なお夜間に安全に排泄できるよう必要に応じて居室にポータブルトイレを設置しトイレ誘導している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で確認しながら、便秘薬に頼らないよう一人ひとりの状態に合わせ飲食物や日々の生活リズムや体操を通じて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	勤務体制上、曜日や時間帯を固定してしまっているが、その中でも楽しんでもらえるよう状態に合わせ臨機応変に対応している。	週3回入浴するようにしている。入浴中に利用者と話をして利用者の思いを聞いている。利用者が希望するシャンプーを利用する事も可能で、入浴後に保湿剤を利用して肌の乾燥を防いでいる。ゆず湯など季節を感じる工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや状態に合わせ、休んでもらえるよう努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しやすいよう一覧表(用法・用量・効能)を作り、服薬管理や症状の確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で希望を汲み取り、個々が何かしらの活動に参加できるよう支援している。	毎日の生活の中で、利用者が出来ることを見だし、職員も一緒に活動している。毎朝の居室掃除、洗濯物干し、洗濯物をたたむ、食事前のテーブル拭きなどを行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降、外出レクが難しくなっていたが徐々に再開していきたい。	天気の良い日は、広い施設内を散歩している。春は、梅や桜が美しく一緒に花を眺めながら歩いている。地域行事もまだ再開されてなく、今後は買い物外出や花見などのドライブに行く事を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所にて行っているが、必要な時には使えるようにはしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できる体制はとっており、年賀状など送ったりもしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、生活感や季節感を感じられるような掲示物を飾ったり、空調管理や居室やトイレも分かりやすいよう案内を貼り、環境整備にも努めている。	毎日、職員が居室・トイレ・廊下などを清掃し、利用者も一緒に居室の掃除をしている。換気に留意し、エアコンフィルター掃除も定期的に行っている。利用者と一緒に作成した桜の折り紙作品やひな人形を掲示している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配席の工夫や廊下のベンチを使用したり思うように過ごせるよう努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の家具や写真、掲示物など飾り、居心地の良い空間となるよう気をつけている。	居室は、ベッド・エアコン・洗面台と収納スペースがあるが、家具・寝具を持ち込んでいる。居室には家族の写真を飾り、職員と一緒に作成した作品を飾るなど、それぞれ工夫して居心地よい空間としている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な動線を考え家具の配置や居室やトイレなど案内表示をしている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム チェリーブラッサム

作成日 令和6年5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点，課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	申し送りや各書類などで情報共有を図っているが、伝達できていなかったり継続して実施できていない事がある。	職員間での継続的な情報共有。	・口頭での申し送りと共に、管理日誌や申し送りノート、カルテ等への記録物を閲覧。 ・ミーティング等で議題について継続できているかの確認を行う。	12ヶ月
2	5	現地開催を再開した運営推進会議へ地域の方や家族への参加が少ない。	地域の方や家族へ会議に参加していただく。	・年6回の会議の案内を定期的に行う。 ・HPや広報誌にて事業所の活動等の情報発信を行う。 ・地域の行事や会議等あれば参加していく。	12ヶ月
3	4	全職員で自己評価を行なったが、内容が希薄で活動の紹介までに至っていない。	再度、外部評価の意義を理解していく。	・次回の自己評価の際には、まとめた意見内容をより具体的にかつ事業所の特色や行っている活動も紹介できるような内容にしていく。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。